

## 令和4年度 第1回四條畷市立図書館協議会会議録

1 日時 令和4年10月27日（木曜日） 午後1時30分～午後3時25分

2 場所 市民総合センター2階 図書館集会室

3 出席

(1) 図書館協議会委員

○出席委員

大庭 つばら委員 尾崎 安啓委員 木村 実委員 小林 初根委員

鉄 寿広委員 林 美香委員 福井 多恵子委員 藤井 啓子委員

○欠席委員

金城 優子委員 高垣 聡美委員

※「四條畷市立図書館協議会運営規則 第6条」により、出席者が定数の過半数に達しているので会議は成立

(2) 四條畷市教育委員会事務局の出席者は次のとおり

賀藤教育部副参事 田中図書館長 福井田原図書館分館長

中崎四條畷図書館職員

4 議題

(1) 新型コロナウイルス感染症にかかる対応について

(2) 令和3年度主な図書館事業の実績

(3) 令和5年度予算編成について

(4) その他について

5 議事次第記録者

中崎四條畷図書館職員

6 開会

田中館長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより、令和4年度第1回四條畷市立図書館協議会を開催いたします。

委員方々におかれましては、ご多忙の折、ご出席いただきありがとうございます。高垣委員、金城委員におかれましては、所要のため欠席との連絡をいただいておりますが、委員数10人中、過半数の出席をいただいておりますので、本日の協議会は、四條畷市

立図書館協議会運営規則第6条の規定により、本会が成立いたしますことをご報告させていただきます。

それでは、議事の進行でございますが、まず事務局の出席職員の紹介でございます。

賀藤副参事

みなさん、こんにちは。教育部副参事の賀藤と申します。本日は、教育部長の阪本が欠席となりますのでご容赦ください。また皆様におかれましては、このあとのご審議よろしくお願いいたします。

それでは、出席職員を紹介いたします。

(以下、職員紹介)

田中館長

続いて、委員の退任と新任のお知らせです。学校教育の関係者として、委員を務めていただいております四條畷小学校の羽森校長が令和4年3月を以て退職されましたので、本協議会委員も退任となりました。このことから、岡部小学校の木村校長に学校教育の関係者として、着任をお願いいたしました。よろしくお願いいたします。

木村校長は、本年3月まで、本市教育委員会教育部の次長を務められ、本協議会にも出席の実績がございますが、初対面の方もおられると思いますので、簡単ではございますが、委員皆様のご紹介を私からさせていただきたいと思います。お名前をお呼びしますので、その際、ご起立をお願いいたします。

(委員紹介)

有難うございます。なお、木村委員の任命書ですが、本来であれば、直接お渡ししなければならないところですが、失礼ながら、机上配布にて、交付させていただいております。ご了承のほど、お願いいたします。

では、次に、事前にお配りしております資料の確認をお願いいたします。

- 1点め 資料①新型コロナウイルス感染症にかかる対応
- 2点め 資料②令和3年度主な図書館事業の実績
- 3点め 資料③令和4年度予算措置状況及び主な施策

次に、本日、机上配布させていただいております資料ですが、

- 1点め 協議会員名簿（修正版）
- 2点め 資料④令和5年度予算編成方針について

(その他、行事チラシ)

以上でございますが、皆さま、全ておそろいでしょうか。委員名簿は、念のため誤りがないか、改めてご確認のほど、お願いいたします。よろしければ、以上の資料に沿って議題を進めさせていただきます。

それでは、この後の進行は、会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

福井会長

皆さん本日は、お忙しいなか、お集まりいただきまして、ありがとうございます。今回は、令和4年度の第1回目の図書館協議会ということになりますけれども、先ほど、事務局の方からもご紹介いただきましたように、羽森先生の後任として木村先生を新たにお迎えすることになりましたので、先生、どうぞよろしくお願いいたします。

木村委員

こちらこそ、よろしくお願いいたします。

福井会長

新型コロナウイルス感染症が出現しましてから、もう3年を経過しようとしていますけれども、まだまだ収まる心配がございません。今日のニュースでも、シンガポールで新しくオミクロンの型の変ったのがまた出現してきたということで、すごく流行っているようで、なかなか終焉とはいきません。このように、ウィズコロナという生活を余儀なくされている状況ですけれども、このような状況のなかで、本市の図書館行政について、将来を担う子どもたちの学習支援、あるいは情操教育の推進、また、一般市民の方々に対しても、文化的生活の発展に資するために、図書館協議会というこの席で、皆さんのより積極的なご意見をお願いしたいと思います。また今回は先ほどの資料にもございましたように、来年度に向けての予算編成についての議題も挙がっておりますので、皆様の活発且つ、建設的なご意見、それからご討議をお願いいたします。

議事を進めるにあたりましては、コロナ感染症予防のために、できるだけ議事進行を効率良く進めたいと思いますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

それでは、議事を進める前に、四條畷市立図書館協議会会議の傍聴及び会議録要領の第9条の規定により、会議録を作成する必要がありますので、同条第2項に基づき、会議録の署名委員を指名いたします。

本日の会議録署名者は、鉄委員にお願いしたいと思います。

鉄委員

はい。

## 7 議事の要旨

福井会長

それでは、議題に入ります。事務局から、議題 1 新型コロナウイルス感染症にかかる図書館の対応について、説明をお願いします。

田中館長

資料①「新型コロナウイルス感染症にかかる対応」をご覧ください。令和4年度上半期におきましては、まず、1 開館状況について、6月下旬から感染者が増え始め、第7波となりましたが、この度の波においては、緊急事態宣言の発出がなく、現在まで開館できている状況です。

感染対策としましては、4月以降、3密の回避、またマスク着用や手指消毒等の呼びかけなど、基本的対策を継続している状況です。

この基本対策は、大阪モデルが緑色となった現状においても、基本対策の徹底が府民へ要請されていることを踏まえ、館内ではマスクの常時着用を呼び掛けるなど、徹底している状況です。

次に、2 行事開催について。開館状況のところでお話しましたとおり、緊急事態宣言の発出がないことから、行事の中止要請もなく、今年度は全て予定通り開催できている状況です。

次に、3 利用状況について。4～6月については、前年に休館がありましたので、前年度との比較ができませんが、7、8月の夏休み期間においては、前年比10%前後の増加となり、回復傾向にございました。しかしながら、9月になりますと、前年比とほとんど同数の利用数にとどまりましたので、コロナ前に戻り切るにはまだ時間がかかるものと考えております。以上でございます。

福井会長

今、事務局から説明がありましたが、何か質問等ございますか。

藤井委員

素朴な疑問ですが、9月に少し利用が落ちているというのは、理由は考えられますか。

田中館長

昨年と比べて、夏休み期間中の利用を見ておりましたら、このまま増加していってくれるものかと思っていたのですが、9月になりますと、前年と同等の数字になってしまったということで、要因等を考えていたのですが、要因らしきものが今のところまだ見つけられておりません。10月についても、もうすぐ月別統計を出しますので、その数字を見ながら改めて考えて参りたいと思います。

福井分館長

田原図書館の方ですけれど、私どももこの統計を見て落胆しました。順調に伸びていると思っていたのですが、9月に入ってなぜか昨年のように落ちてます。そこで、昨年の9月との比較ですが、やはり31歳から50歳の方が少し減っております。特に30代の子育て中のお母さんが来ていないのかと思ったりします。ただ明らかにコロナが原因であるとか、何かということは現時点ではわかりませんので、館長が回答したように、10月の状況を見ながら何か手段を講じないといけないと考えております。

福井会長

ありがとうございます。まだこの時点で他館と比較、あるいは他市と比較というのは難しいかと思いますが、もしも1年間通してこういう統計数値が出ましたら、近隣の市町村の図書館との比較なども出していただければと思います。

他にはございませんか。ないようでしたら、次に、2点めの議題に移ります。令和3年度主な図書館事業の実績について、事務局から説明をお願いします。

田中館長

資料②「令和3年度主な図書館事業の実績」をご覧ください。

まず、1 図書館資料について。(1) 図書の、①蔵書冊数は、計255,997冊で、昨年度より約2,000冊の増となっています。②の年間受入図書冊数が、前年度比でほとんど同数であるにもかかわらず増加しているのは、③の除籍冊数が、前年度より約2,000冊減となっていることによるものです。

(2) の雑誌新聞につきましては、本館・田原ともに雑誌タイトル数が減となっています。原因としましては、休刊があいついだことと、田原については雑誌の予算が削減されたことも重なったものでございます。

続いて、2 利用状況について。(1) 個人貸出は、①利用のべ人数、②貸出冊数ともに前年度比約10%増となっています。議題1の説明においてお話ししましたとおり、今

年の利用状況でも夏休み期間は前年度比約10%増ですので、徐々に利用が回復している状況にございますが、②貸出冊数の表の下に記載のとおり、令和元年度、コロナ禍前と比べるとまだ約88%の状態ですので、完全回復にはまだ時間がかかるものと考えております。

続いて、ページ変わり、(2)登録者について。①有効登録者数は、前年度比で約300人程度、約6%の微増でございます。

続いて、ページ変わり、(3)年齢別統計①市内年齢階層別利用人数は、全体で10%強の増加です。0～18歳までの子どもの層の伸び率が大きいのが特徴です。

続いて、3 その他の利用について。(2)予約件数が、約10%弱の増加となりました。増加数の内のほとんどがインターネット予約であり、時代を反映した結果となっております。

ページ変わりました(5)図書のリサイクルをご覧ください。コロナ禍の接触感染回避やソーシャルディスタンス確保に鑑み、常設のリサイクルコーナーも含めてリサイクル本の譲渡を休止していたのですが、昨年11月から再開し、再開にあたってはフェアを実施しました。会場は市民総合センター1階のホワイエで、旧北出小学校に設置のリサイクル図書室以外では久しぶりの開催となりましたが、たくさんの方にお越しだけしました。

続いて、4 行事について、緊急事態宣言の発出などで、令和2年度に続いて、多くのイベントが中止となりました。そのような状況下でしたが、少し感染状況が落ち着いた3月には本館開館40周年記念行事を開催いたしました。人形劇以外は、初めての試みのプログラムでしたが、盛況のもと開催できました。

ページ変わりました、5 その他取り組みです。令和2年度同様、(2)出前おはなし会に中止期間があり、(4)職場体験が取りやめとなるなど、コロナ禍の影響が続きましたが、(3)の小学校の施設見学は、令和2年度の1校から3校に増え、回復傾向がみられるものもございました。

続いて、ページが変わり6 学校図書館支援について。平成27年度から支援を開始し、段階的拡充を経て、令和2年度に小中全校の支援を達成しました。令和3年度も引き続き小中全校の支援を実施いたしました。

続いて、7 ビブリオバトル市内子ども大会inなわてについて、平成29年度から中学生大会として開始し、令和元年度からは小学生大会を加え、子ども大会としました。

令和2年度に続き、令和3年度もコロナ禍の影響で中止となりました。なお、今年度は現在調整中です。

以上、議題2の説明でございます。

福井会長

ありがとうございます。それでは、項目としては非常にたくさんの項目ですけれども、一括でいきたいと思いますので、どの項目でも結構です。何かご質問、ご意見等ございますか。

尾崎委員

まず、3ページの年齢別の統計のところですが、どちらの図書館でもこのような形式で年齢別で出しておられるのですけれども、最近の状況のことをいろいろ考えると、1番下の61歳以上というのが、すごく雑な統計といたしますか、ここはもう少し細かくできないものかなと思います。特に65歳ぐらいまでは仕事持っておられて、今は60歳で定年しても再雇用があるなど、働いている方が多い世代ですので、そういう方と、一応もう仕事は終わったという方との違いなどが出るかと思うので、もし統計上出せる数字なのであれば、今後ご検討いただければと思います。

田中館長

貴重なご指摘ありがとうございます。私も毎年、統計を集計しておりまして、60歳以上が年々占めるパーセンテージが大きくなっており、令和3年度では43.1%と半数近くになり、61歳以上でひとまとめにするのはどうかと思っておりまして、来年度の集計に向けまして、どのようにまとめればよいか検討したいと思います。

福井会長

よろしく申し上げます。後期高齢者とかいろいろ言葉がありますように、やはりその年代年齢で、生活状況、あるいは身体的な能力などがだいぶ変わってきますので、これは経験してみないとわからないのですけれども、そのあたり、それぞれの世代に応じたサービスというものが、もう少し統計を参考にまたいろいろ考えていただけるのではないかと思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。

他にございませんでしょうか。

林委員

昨年度と比べると少し回復傾向にある数字だとは思いますが、何年かこの協議会に参加させてもらって、平成30年度の同じような資料を見ていると、1ページめの貸出

のべ人数、今年度が5万5112、平成30年度は8万388となっています。貸出冊数も同様で、こんなに下がっていいのだろうかというような数字が並んでいるのが、どうしたものかとすごく思います。悲しい気持ちになっています。今日配布して下さった資料も、大人向けの行事と書いてあったので、いろいろなアピールができていいなと思うのですが、少し不安です。すみません、このような意見で。

福井会長

昨年、一昨年はコロナの感染と、威力というのがそんなにまだまだわからない、不安な状況でしたのでね、皆さん外出には自重されたという点があるかと思いますが、もう今やウィズコロナということで、政府の考えをうけて進んでおりますし、だからこれからまた市民の皆さんへの広報等によってですね、またもう少し改善されるのかなと思いますが、事務局の方ではいかがでしょうか。

田中館長

ご指摘の通り、1年間コロナと関係なかった年度が、直近では平成30年度かと思えます。ご指摘の通り8万ほどの利用者数がありまして、今年度5万5千ということで7割弱の数まで下がっております。確かに令和2年度、まる1年間、初めてコロナ禍になった年度に比べると増加はしているのですが、まだ増加の度合いが緩いというところですね。図書館利用は、習慣というところがあるかと思いますが。コロナ禍で、2カ月もの休館が2年続いたということで、習慣が途切れてしまった方が多いのではと推察しているのですが、今後は情報発信に努めて、図書館へ出向くことを思い出していただくということを地道に進めていくしかないのではないかと考えております。

子どもたちに向けましては、学校図書館で、いろいろと支援させていただいていますが、こちらでもコロナ禍でいろいろな対策をとるなか、来室する子どもの数も若干減ってはいるのですが、市立図書館ほどの落ち込みではないので、今後ますます学校図書館への支援の重要性が増していくものと考え、そちらに重点を置いて取り組んでいきたいと思っております。

福井会長

ありがとうございます。以前にも、ご意見として出ていましたけれども、大人の利用を促進するという意味で、大人向けの行事をとという声も出ておりまして、資料を見せただけでしたら、取り組んでいただけるということですので、来年の図書館協議会では、ぜひともこの利用者数が増加、おそらく増加するだろうと思っておりますけれども、

またよろしくお願ひいたします。

#### 鉄委員

すみません。この原因を考えたときに、やはり電子図書が大人等に、20代、30代、40代辺りは増えてきているのかなと思います。わざわざ図書館に足を運ばなくても、読めますので。少し違うケースですが、私の娘もマンガをいっぱい持っていたんですが、全部売りました。なぜかという、電子で読めるからということ。それは1つの例ですが、電子図書に対して、図書館としてどこまでそこに關われるか分からないですけども、そのような要素もあるのではないかと感じるところです。何か調べたりするのは、昔は図書館に行って調べるということだったと思いますが、今はネットですぐ調べられますね。そういうことを考えたときには、実際本を手にとることの差別化といいますか、今後考えていかなければならないと、今の状況を見たときには思います。

#### 福井会長

ありがとうございます。確かに、そういうことですよ。家の子どもたちでも、すぐにその場ですぐに調べて、親よりも先に回答してくれますけれども、ただ本を読むというのと、そういう情報を知るというのは全く違うことなので、その辺の教育というのは、それは学校でもお願いできればと思います。

私の子育てのときの経験なんですけれども、これは前にもお話したことがあるのですが、まだその当時は電子機器が一切ない頃で、小学校1年生に上がったとき、担任の先生が、「何でもいいからね、今日お家に帰ったら、お家の方、お母さんでもお父さんでも誰でもいいから、誰かにね、あなたが声を出して本を読んで、それを聞いてもらいなさい」という宿題を出されたんですね。「本は何でもいいよ、お家にあるもの、あなた方が読める本だったら何でもいいからね」ということでした。先生は毎月1回学級通信というのを出されてまして、小学校1年生ですが、入学したときの4月、5月、6月、7月と経つと子どもたちの書く文章ががらっと変わったんです。これは私、自分自身も図書館に勤めておりながら、初めて経験させていただいたことだったんですけれども、これだけ本を読むということで、変わっていくんだということを本当に体験しました。そこで改めて、自分たち職員はもっと頑張らないといけないんだと思いました。

そういう経験がありますので、特に最近、ここ数年、学校図書館支援ということで支援員さんを派遣していただいてから、すごく図書室の利用が増えたという報告もありましたし、いいことですが、支援員さんにお任せするだけではなく、そこは学校の先生方

でも支援するという共同作業で進めていただけたら、もっと支援員さんを派遣していただいているメリットが大きくなるのではないかと思います。

今、図書館も夜7時まで開館していただいていますから、20代、30代、働き盛りの方でも、週に1日くらいは「ちょっと図書館に寄ってみようか」という状況を可能にいただいていますので、できればそのような方たちにも利用していただきたいと思っています。

他にはございませんでしょうか。

#### 福井分館長

利用が減っているという状況なのですが、確かに理由はなかなか掴み辛いです。高齢者に偏ってきているということ、子どもたちが読書習慣を失っているということ、また、お母さんが働きに行っているということは大きな要素で、以前は子連れのお母さんは結構利用の柱になってくれたのですけれども、社会状況の中で、ある程度のことは影響を受けているというのは実感として捉えておりますが、例えば昔のようにしっかりした読書をされる方が減っている。ただし、本を読みたい方はすごく要求がある。強い要求はあるのですが、その一方で図書館に来る方が、やはり薄いというのが実感です。

では、どうしたら良いかということになりますが、子どもの行事も一時に比べると飛びついてくれるお母さんが減っている。その反面、個々の読書に対して高い要求度を持たれる方は徐々に増えてきております。だからリピーターのなかで、本を読む習慣のある子どもたちとお母さんは次第に増えてきているけれど、統計で見ると全体では減っているというのが実感です。

また、中間層の中学生、高校生は全滅と言う言い方が悪いのですが、いろんなコーナーをやっても、なかなか読みに来てもらえない。手ごたえがあまりない。ただし、高齢者層はどんどん来ていただいているというのは実感としてあります。

なかなか現場としてこういうことをすれば良いというのが、今は見えてこないもので、模索をしているというのが現場の実態です。

#### 林委員

新聞か何かでみたのですが、貸出の郵送サービスの利用が、岡山県かどこかであったんですが、どういう仕組みで郵送サービスが行われているのか、有料なのかどうかも知らないのですが、やはり借りたい人たちというのはいらっしゃって、でも何かの事情があって来られない。郵送してもらえれば本が好きに、読みたいものが手元に届いて、動

かずに読める。もしかして足がお悪い方とかなのかもしれないですけど、分館長が仰ったように読みたい人たちは絶対いらっしゃるので、どういうサービスがいいのかは分からないですが、きっとできることはまだあるのではないかと思います。予約も。私は予約まではあまりしたことはないですが。

福井会長

予約もここに書いてあるように、インターネットが結構増えていて、おそらく若い人たちでしょうけれども。電話でもできますし。

福井分館長

四條畷で一番大きいのは、学校図書館に職員を派遣できるということ。そこで子どもたちが読書習慣を徐々に身につけてくれていて、その子たちが市立図書館の利用を始めてくれているので、もう少し待っていただいたら、数字は戻るんじゃないかという期待は非常に大きいです。

藤井委員

学校の先生にお伺いします。一時、朝読がはやりましたね。朝の読書は、今もやっているのでしょうか。

鉄委員

中学校は全部やっています。小学校も多分やっているとします。

藤井委員

朝読は、だいぶ昔のことで、そういうのが始まった時代のことですが、自分がやっていた時代は、やはりあくまで習慣なので、意外と子どもは習慣になるとやるんです。朝読なんかと言いながら、荒くれの子どもでも習慣になったものなんです。だからやはりそういうチャンスというのか、何とかならないかとなかなか厳しいものがあるけれども、子どもたちにそういう呼びかけができるのは学校が1番と思います。

現在、朝読をやっておられて、その読書の本は自分で購入するのではなくて、学校図書館のものを使うんですか。

鉄委員

中学校は3校ともやっているんですけども、それぞれが自分の読みたいものを持っていくという形ですね。

福井会長

それは毎朝、何分間かしておられるんですか。

鉄委員

学校によっては10分、学校によっては15分というような形です。10分から15分ぐらいですね。

福井会長

そうでしたら当然、学校の図書室から借りてくるとか、あるいは市立図書館から借りてとかということになりますか。購入もあるかもしれませんが。

鉄委員

そうですね。

福井会長

そういうことで利用されておられる。

尾崎委員

どうしても子どもさんの場合、小学生と中学生とではかなり違ってしまっていて、図書館に行くということについて、中学生になるとかなり自由に、例えば自転車に乗ったりしていけるんですが、小学生ですと、基本的に親の同伴がないと校区外に出ないので、図書館が校区外にあるような所は、誰かに連れてきてもらわないといけないんです。ですから、逆にいうと、その分だけ、学校の図書室の方が重要になってくるんですね。

ですから、そういう関係にあるので、どこに力を入れていくのかということ、子どもの読書の場合は考えないといけないということと、もう一つは、大阪府下でも顕著なんですが、一時、最初のころの読書活動推進計画で、最初に皆取り組んだのは、ブックスタートだったんですね。小さい子どもさんに読み聞かせをしようということで始めて、今ようやく学校段階まで来ているんですが、その時その時で言われていたのは、そのことですね。小学校に力を入れたら、中学校。中学校に力を入れたら高校というように、次のステップのところまで皆倒れてしまうんです。

ですからYAの問題なども大きいんですが、要は図書館だけでやれることも限界がありますし、学校だけでやれることも限界がある。ですから、街全体でいかに、学校が精一杯面倒を見てくれる期間を離れた後の世代を、どうしていくかということをもう少し考えていかないと、結局、それが読書する大人につながっていかないですね。読書する大人につながっていかない人が親になると、子どもにまた読書させなくなって、そういう悪循環が続くので、そういう意味で手の打ち方をいろいろ考えていかないといけないのかなと思います。これは四條畷だけではなくて、どこでもそうなんです。

福井会長

ありがとうございます。確かに、そういうものですよ。今まで皆なるほどと頷けるものばかりのものですから。

木村委員

小学校で校長していますので、小学校の状況を少しお話させていただきます。この4月から岡部小学校の校長をやっていますけれども、今、中学校でやられている毎朝の読書活動、朝読を本校は取り組んでいない状況にあります。ただし、毎週金曜日は本を読もうという呼びかけは朝の時間にやっています。

それから、学校の方では図書委員会で、子どもたちがどうやって皆に本を読んでもらおうかという活動が中心になっていて、その中で、実は今日もやっていたんですけども、これは市立図書館でもやっているなと思ったんですが、スタンプラリー。何冊か借りたら、シールがたまっ、それが10個たまったら図書委員の子どもたちが一生懸命に折ったかわいい、ちっちゃなしおりをプレゼントするというような取り組みをしています。実は今日が初日だったんですけども、いつも運動場を子どもたちがどんな遊びをしているか、危険なことをしていないかと思いながら見ていましたら、今日、運動場はすごく少なかったんです。子どもたちが遊んでいるのが。どうしたのかなと思ったら、図書室ですごく並んでいて。20分間長い休みがあるんですけども、今日からスタートで、しおりをもらえるし、スタンプももらえるということで、長蛇の列になってしまっていて、この20分間休みだけではさばききれないような状況にありました。

ただ、学校っていうと何でも学校でっていうところがあるかもしれないですが、学校ができることは、やはりそうして興味を見つけてあげたりとか、きっかけを作るのが大事なのかなということを感じました。

本当に子どもたちはそうやって興味を持ってやるしかけを、どう作っていくのかというのが1つ大事なのかなということと、本当に久しぶりに学校現場に戻って、一番感じたのは図書支援員さんのサポートの厚さといいますか。図書室が全然違うんですよ。ディスプレイから何から何まで。図書の時間などに入らせてもらうんですけども、支援員さんが読み聞かせをしてくれたりして、読み聞かせってものすごく大事だなと。同じものを皆で共有しながら、頭の中でいろいろ想像したり、あの子はどんな風に感じているのかなとか思ったりとか。そういうことをすごくしてくださっていたり、当然環境も綺麗になっていますし、ポップアップで本のおすすめなども掲示してくれてい

たり、本当に興味を持ってやってくれている。子どもたちが利用しやすいようにしてくださっているのが本当にありがたいと思っています。

久しぶりに図書室へ行ってしばらくいろいろ思わず見てしまうような、そんなしかけもあるので、やはりそうしたしかけ作りというの、今後も大切にしていきたいなって今話を聞いていて思いました。

#### 福井会長

学校図書館も支援員さんと、教員の先生方との連携でもってというのがね、大事なんでしょうね。子どもたちはちょっとしたきっかけで、すごく興味を持ちますし、それで、またそれによってすごく思わぬ能力が発揮できるってことがあるのではないかと、我々素人は思いますので、専門家の先生方にその辺りをよろしくお願いしたいと思います。

そうしますと、やはりなかなか図書館に子どもたち自身だけで足を運ぶというのは難しい。本市でも旧北出小学校、外環より西の方たちはなかなか不便というのが、ここ20年来、何年間も皆さんのご要望がありましたけれども、なかなか実現しない。解決しないという状況で、それは身をもって我々も感じていますが、やはり親御さんらが、まず本に接するという機会を作るために、ブックスタートなども開始されたんでしょうし、それが行き渡ると、今度は学校図書館で子どもたちが本に接することなんでしょうけれども、ここ数年、もうお母さんが忙しすぎる。お母さんの時間がない、ゆとりがない。そういう風な状況になっていっているのではないかなというのを、日々私なんか、町会の行事などに関わる仕事をさせていただいたときに、感じているんですけど。そうしますと、今まで母親がやっていたことに対して、じゃあ公がどこまで手助けできるかということも、考えられると思いますが。学校教育、学校の先生方の連携、それから地域での文化活動というの、ボランティア活動になってきますけど、そういうのを助成していくというも必要なのではないかと最近考えるようになったんです。

なかなか大変ですね、これからどんどん子どもさんが減って行って、しかも老人の介護、世話、親世代の介護というのを子育てをしながら見て行かないといけないという40代、50代、60代の方々が大変な状況なんでしょうね。そういう時代の変化に、図書館もどんどん変化していかないといけないんでしょうけれども、何かいろいろ思いますが、解決策はなかなか難しいですね。

他に何かご質問、ご意見ないでしょうか。

## 小林委員

今年、5年度の予算編成のところに、図書館及びブックスタート等の子ども関連事業というのが大きく分けられているんですけども、前回のこの会のときに、ブックスタートで配布されている絵本を見せていただいて、私はそういうのを見る初めての機会だったんです。今まで、全然何が配られているかということ、思いも寄せていなかったんですが、見たときに、本市では「くっついた」という絵本だったんですけども、それも初めて見る絵本で、ざっと最後までみて行って、終わってからふと思ったんですが、いろんな動物がくっついていくんですよ。それで、最後の最後に自分はお父さんとお母さんがくっついた、というので子どもにくっついたねっていうふうにやるのかなと思うんです。

してみると絵本っていうのは古典的な絵本なんですね。私なんかは子どもに初めて見せた絵本っていうのは「いないいないばあ」であったので、そういうものがブックスタートなのかなと思っていたんですが、最近は母子手帳というのも、母子ではなくて親子手帳に名前も変わっていっていますし、それからやはり片親、父子、母子も全体的に増えていっているなかで、せっかく支援しようと思ってお母さんと子どもと一緒に来てください、お父さんと子どもと一緒に来てくださってと言って、渡されたときに、子どもはその絵本を最初に見られない。親が最初に子どもに見せてあげようと思って見たときに、ひとり親の自分が、お父さんとお母さんとくっついてって場面になったときに、まず自分がすごく重いもの感じると思うんですね。それで、その子どもが1歳なり、2歳なりになって、自分が絵本をみて、自分で読むようになったときに、あ、犬と犬がおってくっついてんな、ぼくのお父さんとお母さんはくっつけるのかなとかいう疑問に結びついていくのではないかとこういうように思っていました。

それは私の余計な考え方かもしれないけれども、これだけ片親というのが増えているなかで、頑張って子育てをしている親も支援するという意味において、先ほどのお母さんは本を読む時間もない、お父さんもそうですけども、そういうなかで、ちょっとしたことですが、やはり励みになるような、母子ともに励みになるような絵本になればいいなど、ブックスタートになればいいなというふうに思ったので、その辺もしも、私のそれは偏った考え方かもしれないんですけど、その辺も考えて、本の選考というのはしていただけたらなと思いました。

田中館長

ブックスタートで配布する本について、貴重なご意見いただきまして、大変恐縮に思います。前回の協議会が終わったあと、小林委員から今と同様のご指摘を受けましたので、担当の者と話をさせてもらったんですが、担当の者も内容自体は把握しており、確かにひとり親にはどうなのかということは憂慮していた状況でした。

用意する本は1冊だけではなく、兄弟のおられるお子さんもいらっしゃるのので、同じ本をお持ち帰りいただくということになっても無駄になりますので、替わりの本は用意してあって、昔から定評のある本なのでラインナップの中に入れるということで、購入を予定しているということでした。一応配る前には配慮しますということで、聞いております。

また、先ほど林委員からお話がありました郵送貸出についてですが、コロナで来館いただけないケースが増えたということで、各自治体で輸送貸出サービスをするところは増えてきていることは確かです。コロナ禍で、閉館の間限定というところもあるなど、パターンとしてはいろいろあるんですが、共通しているのは、郵送費の負担はご本人ということなんです。どのくらいの利用があったかというのは、他市に確認したことはないのをお伝えできないところなんですけれども、流れとしては、ご自宅まで配送して、返すのは自力で郵便局まで行ってくださいというところと、最寄りの郵便局まで届けておきますので、その郵便局まで取りに行ってくださいというところもある。

まとめますと、本人負担というのは共通、配送方法に関しては何パターンかあるようです。

福井会長

ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

福井会長

それでは、次に、3点めの議題に移ります。令和5年度予算編成について、事務局から説明をお願いします。

田中館長

例年、10月は来年度の予算編成が開始される時期でございます。今年度も、10月14日付けで市長より予算編成方針が出されました。この方針を踏まえ、まず、11月4日（日）で、予算要求を行うこととなります。

この予算要求に向けて、来年度取り組むべき事業の取りまとめを行うこととなります

が、この事業の取りまとめにあたり、委員方々のご意見をいただきたく思います。

ご意見をいただく前に、この後、予算編成方針と図書館の予定、及び本年度の予算措置状況を説明させていただきますので、議題2でご説明しました令和3年度の実績とともに参考にさせていただければと思います。では、説明させていただきます

資料④（本日机上配布）「令和5年度予算編成方針」をご覧ください。令和5年度予算編成方針において、柱となる考えとして次の3点があげられております。要約でお伝えします。

①ひとづくり、規模の小ささを活かしてきめ細かなサービスを提供してきた本市は、元来ひとづくりを強みとしている。この強みをさらに伸ばすべく、将来を担う子どもたちへの投資はもちろんのこと、大人の学び直し等の働く世代への積極的な投資についても検討されたい。

②まちづくり、長年の緊縮財政による各種インフラ等の老朽化は、本市の弱みとなっている。また、現在検討を進めている公共施設の再編は、いわば市の第2創業である。もう一度まちを創り上げるこの機会に、50年後の市民に誇れるまちを残すという気概を持って、各担当の積極的な提案を期待している。

③しくみづくり。市民ニーズが多様化し続けるなか、そのすべてに私たちだけで対応することは現実的ではない。市役所以外のNPO等といった団体の設立や活動を支援していくことも重要となる。一過性にならず、継続的に事業が継続できる体制づくりについても、積極的に検討されたい。

この方針を踏まえ、図書館としては、次の3点については、特に予算確保に努めるとともに、事業内容の強化を図りたいと考えております。

①大人向け行事の新設について、コロナ禍で市立図書館の利用は減少状態にございます。この後、コロナ禍が収束したとしても、にわかに回復しにくいと思われるため、来館いただけている方々へのサービスをよりきめ細かなものにし、満足度向上を図りたく、方針に挙げられている「大人世代への投資」を踏まえ、大人向け行事を新設したいと考えております。

②学校図書館及びブックスタート等の子ども読書関連事業について、方針に「子どもたちへの投資はもちろん」と挙げられているとおり、ひとづくりの基盤は子ども時代からと考えております。子ども読書活動推進計画の重点施策の学校図書館支援及び世代全員へサービスできるブックスタートは、引き続き予算確保に努めたいと考えます。また、

方針に挙げられた「しくみづくり」の観点から、予算確保のもと、人員不足である支援員確保の方策、また、ボランティア方々との連携に関し、さらにより良いものとなるよう図ってまいりたいと考えております。

また、子ども読書活動推進計画については、令和5年度が計画最終年となります。したがって、策定作業の年となりますことから、本協議会においてご審議いただきたく、通常年2回開催に2回プラスした計4回分の予算計上を予定しております。よろしくをお願いいたします。

③田原図書館の児童コーナーの整備、田原地区はこちら西部地区にくらべて、登録率が高い状況にありますが、書架が少なく、開架に出せる冊数に限りがある実態にあることから、「ふるさと納税」充当の「こどもたちに本を」の枠を活用し、書架を増やす整備を行いたいと考えております。

以上、図書館の考え方です。なお、方針の「2まちづくり」につきましては、現在、議会において施設の再編について検討がすすめられているところでございます。図書館としましては、この検討において方向性が示されましたら、具体的に考えてまいりたいと考えます。この点につきましては、後ほど、その他の議題で改めて触れさせていただきます。

以上、令和5年度予算編成方針についてです。あと1点、審議の参考にさせていただきたく、現状の予算を簡単にではございますがご紹介しておきたいと思っております。資料③「令和4年度予算措置状況と主な施策」をご覧ください。

令和4年度の予算については、前回3月開催の協議会でご説明いたしましたので、数字についての詳細な確認は割愛させていただきまして、各予算項目の主な内容説明のみでご容赦いただきたいと思います。

まず、1 利用者サービス事務です。主な内容は、開館業務や行事開催であり、予算としては非正規職員の給与や講師への謝礼が主なものとなります。

続いて、2 図書館資料関係事務です。主な内容は、資料の収集・保存、管理であり、予算としては図書・雑誌等の購入、資料データの作成などが主なものとなります。

続いて、3 図書館協議会関係事務です。主な内容は、図書館協議会開催であり、委員方々の出席報酬でございます。

続いて、4 障害者サービス関係事務です。主な内容は、通常の活字資料では読書が困難な方へのサービスであり、予算としてはボランティア団体への協力謝礼や資料購入

が主なものとなります。

続いて、5 ブックスタート関係事務です。主な内容は、毎月4カ月健診にて赤ちゃんに絵本をプレゼントするものであり、予算としてはプレゼント用の本の購入が主なものとなります。

続いて、6 図書館管理運営事務です。主な内容は、図書館業務を円滑に遂行するための維持管理であり、予算としては公用車やコンピュータ等に関する経費が主なものとなります。

続いて、7 田原図書館管理運営事務です。主な内容は、田原分館の開館業務にかかるものであり、予算としては非正規職員の給与や行事開催、資料購入費などが主なものとなります。

続いて、8 ビブリオバトル大会事務です。主な内容は、児童生徒対象のビブリオバトル大会開催であり、予算としては優勝賞品の購入費用を計上しています。

続いて、9 学校図書館支援事務です。主な内容は、学校図書館の活性化の支援であり、予算としては非正規職員の給与や館内整備のための消耗品費が主な予算となります。

以上が予算項目の内容ですが、大きな増減がある項目に関しては要因が明確なものでして、通常業務には影響はなく、現状としては、非常に余裕がある、あるいは非常に厳しいというような極端な状態の予算項目はない状況でございます。したがって、フラットな視点でご審議いただけるものと考えております。

以上、議題3の説明です。これらを参考にいただき、予算要求に向けてのご意見を頂戴したいと思います。図書館の考え方への意見、他に強化すべきことなど、何でも結構でございます。

まだまだ、コロナが完全収束には至らず、今後の予測がしにくい点もございますが、よろしく願いいたします。

福井会長

今、事務局から説明がありましたが、何かご意見等ございますか。

小林委員

8番のビブリオバトル大会についてなんですけど、2つありまして、1つはここに出てくる子どもたちがどのように選ばれているかということです。選ばれているかというのは、どんなふうに子どもたちがビブリオバトルを経験しているのか、普段。例えば読書感想文大会といえども、夏休みの宿題で読書感想文を書きなさいとか、そういう機会かと

思うのですけども、ビブリオバトルというのはそういう場を作って、切磋琢磨して経験して身につくというか、ただ読めばいいというものではなくて、それをまとめて、時間の制限があるなかで、それを表現する。そして、相手のものを聴いて、それを捉えて一票を投じる。そういうことを経験しないとできないと思うんですけども、それがどこまでできるのかなといたしますか。ただ誰かが自分の好きな本を紹介するというのであれば、読書感想文大会とかだと思うんですけども、ビブリオバトルというからには、そういうことが各学校で実際、できるんだろうかなとちょっと思います。それは全然わからないから、どんなふうに挙がってくるのかなというのをお聞きしたいということ。

それから前にも言ったと思いますけども、これはすごく少ない予算ですけども、やはり予算をつけてやるということは、もっと広く市民に傍聴できる、参加できるという機会があった方がいいので、もうちょっと会場を大きくしたらどうでしょうか。ずっと市議会の議場だと思うんですが、なかなか行けないですよ、あそこの場所は。だから例えばここであれば、一番小さいホールありますよね。入ったところにあるああいったところとかですね。普通の市民が気軽に立ち寄れるような場所、もうちょっと人数が増やせるような場所に変更されたらどうかというように感じます。

田中館長

まず、子どもたちの選出方法ですが、校長先生も出席していただいているので、校長先生の方から教えていただけたらと思います。あと普段の取り組み状況につきましても、ご報告いただければと思います。授業でビブリオバトルを体験するような時間を確保している学校もあるというようには聞き及んでいます。

また、開催手法ですけれども、ここ2年間中止が続いております。これを踏まえまして、通気性に関して、窓のない議場を会場にしてよいのかという声がありますので、会場を含めて、手法自体を一から考え直そうということで、今、調整をしている段階であります。その結果、開催しないこともあるかと思っておりますけれども、手法を見直しているところでございます。

鉄委員

ここ2年中止ということで、中学校でどのように選出してきたかということは、私は把握できていないんですけども、田原小学校の方では、国語の時間でビブリオバトルのやり方を実際にやって、その学年が絞られていましたので、その学年の中で、教室で実際にビブリオバトルをして、その中から選ばれているという年もありました。それから

その前の年は、希望者みたいな形で挙がってきたということもあります。

ただ、授業でビブリオバトルはどういうものかということは必ずやっていました。それで、中学校では去年、中学1年生だったか、クラスの中でそれに関連した教材を使って、どうかわからないけれども、実際にビブリオバトルをやっていました。それで、学年優勝を決めるようなこともやっていました。田原中学校で。だからそういう形で、経験した2校しか知らないんですけれども、他の学校はどのように選んでいるかはわかりませんが、そういう形では取り組みはしています。

福井会長

これは今まで、各学校から1名は出てくださいとか、2名は出てくださいとか、そういうことはなかったですか。もう完全に希望ですか。

田中館長

各学校、小学校でしたら1人、中学校でしたら2人ということで選出枠を設けて、呼びかけしてきたという状況でございます。

福井会長

わかりました。ご指摘にありました、会場及び手法ですね。やり方自身も今、再検討中ということですので、今日のご意見を参考にさせていただきまして、また活発になるような方策を考えていただきたいと思います。

他にはなにかございませぬか。大人向けの行事ということで、今何か温めておられるようなことは具体的にございますでしょうか。

田中館長

いくつか腹案といたしますか、あるんですけども、その中では、3月に40周年記念行事のときに、一度テスト的に開催しました「絵本セラピー」です。こちらは参加者の中で好評でございましたので、また定例化していきたいという思いはあります。

資料2の5ページの⑧「絵本セラピー体験～大人の心にきく絵本タイム～」、基礎絵本セラピストによる大人向けワークショップということで実施したんですけれども、参加者としてはコロナ禍ということで9名で抑えめの定員にさせてもらっておりましたが、参加いただいた方は非常に満足して帰っていただいた状況です。内容としましては、絵本セラピストという方に講師に来ていただいて、まず講師が絵本を参加者に向けて読み聞かせをしていただきます。そのあと、その絵本の内容に関連した質問を参加者にしまして、その答えをグループ分けした参加者の間で共有していただくという内容です。絵

本を元にした簡単な質問ですので、話が比較的弾みやすく、参加者間の中で非常につながりができやすいといえますか、非常に和やかな雰囲気です。話せたということで、最後には楽しかったなという思いで帰っていただけるというような内容でございました。

数冊の絵本で繰り返して、最後に講師が全体的なテーマをまとめるというような内容なんですけれども、またやってくださいというような声もいただきましたので、定例化したいなという思いはございます。

あと、図書館らしい内容のものというのを考えていまして、若者向けにプレゼンテーションの講座みたいなものをやってみたいと思っているんですけれども、それも最近紙芝居の手法を取り入れたプレゼンテーションが話題になっているらしいんですけれども、一度お願いしてみたいと思っています。実際に来ていただけるかはわからないんですけれども、その方によりますと、プレゼンテーションというのは紙芝居の手法です。紙芝居というのは1枚1枚でストーリーになっていって、起承転結がある。プレゼンテーションも1枚1枚見せながら、起承転結でまとめていく手法で、紙芝居の手法と同じなんですということで、紙芝居を題材にしてプレゼンテーションを学ぶという、楽しい内容だそうで、一度お願いしたいと思っております。

あと、お配りしておりますチラシにありますように、音読タイムです。これは11月2日に、こちらにおられます、あけぼのさんの協力のもとで、一度試みとしてやってみようと思っているんですけれども、こちらはまたリクエスト等ありましたら定例化していきたいと思っています。音読は、非常に脳の活性化にもいいということですし、しっかりと音読したときには腹筋と肺を使うので体にも非常にいいということで、最近、図書館で音読タイムをすることで増えてきておりますので、こちらでも定例化できればと思いました。

福井会長

この前、上皇様が、ご夫妻が日課として毎日散歩の後は音読をしておられるというのが報道されておられましたね。私もそれでね、ああそういうことなのかと。認知症予防なんだなと思って、母にと思いましたがね。

田中館長

余談になるかも知れませんが、本当に音読というのは黙読よりもかなり脳の各部所を使うと言われております。ある本では、脳の約7割を使うという話もありまして、音読をした後は、非常に脳が働く準備、つまりウォームアップされた状態だということだ

そうです。その本に載っていたのですけれども、朝読をしている中学校で、すごく賑やかになってしまうとは思いますが、単に朝読を黙読でやるのではなく、子どもたちに音読で朝読をさせると、1時間目の集中度、1時間目の内容の頭への入り具合が格段に違ったというような記述が載っておりました。このあたりを参考に、音読タイムは大人にも効くと思いますので、定例化できればと思っております。

福井会長

この11月2日の開催は申し込みですか。直接ですか。

田中館長

非常にありがたい状況でして、書いておりますように定員10名で、事前申し込みという形でやらせていただいております。まだ枠がありますのでどうぞと申し上げようと思っていたのですが、協議会が始まる直前に10人に達してしまいました。

福井会長

残念です。参加しなくても、見学というのは可能ですか。

田中館長

そうですね。協議会委員さんでしたら、見学ということで是非お越しいただければと思います。

藤井委員

どうぞ。見学どうぞ。場所に余裕がある。ここですものね。

福井会長

それに伴う予算なんですけれども。こういうふうにもいろいろ行事を開催していただきますと、当然経費も必要かと思っておりますけれども、今年予算ですと、行事謝礼というところぐらいですか。ほとんどがボランティアの方々の、講師はボランティアという形でやっていただいているかと思っておりますけれども、もっと必要かと思っております。

田中館長

予算編成に向けて図書館の考え方ですが、要求をしたいということでございます。今、紹介しました令和4年度の予算にプラスでの要求になりますので、首尾よく、予算要求が認められればということになります。実質査定で少ないということになることも考えられますので、また3月の協議会で結果を報告したいと思っております。

福井会長

ありがとうございます。他にはございませんか。

小林委員

大人向けの取り組みと直接関わらないと思いますけども、最近サンタがすごく増えましたね。通りにあちらこちらにあって、今60いくつか、70近くになっているんですよ。

福井会長

そんなにあるんですか。

小林委員

加速したのだと思うんですけれども、SNSも毎日のように谷口さんがあげておられて、夏は福山美術館で朝日新聞後援でひと月以上の展覧会が実施されて、次は京都の駅美術館でやるんじゃないかと言われててね、すごく知名度が上がってますよね。せっかくこの四條畷市の市民で、この入り口にもちゃんとモニュメントがあって、多分それを見た人が、四條畷行ったら何かあるのではないかと。図書館行ったら、絵本を全部見れるぐらいのことは思っているのではと思うんですが、絵本は全部揃っているんでしょうか。

田中館長

町中サンタという取り組みをされていて、最終的に、「100人のサンタ」という絵本を出されているので、100体に増やしたいという思いを持っておられるようです。谷口さんの絵本に関しては、もちろん図書館では全て、外国で出されたものも含めて所蔵しております。貸出状況ですが、当初はこちらで谷口さんの絵本を置きはじめたときは、申し訳ないんですが、それほどでもなかったのですが、各方面でいろいろな所へ呼ばれるようにならればじめてから、それと比例するように貸出も伸びまして、現在では子供向けの絵本の貸出ベスト10の大方が谷口さんの絵本という状況になっています。谷口さんコーナーを設けていますが、本のPOPだけあって、本自体が全然ないというような状況も珍しくないぐらい、皆さん借りておられる状況になっております。

小林委員

なんでもかんでもね、それに乗っかるというのは、谷口さんに迷惑な話だと思うんです。前に、なんだったか、子どものスタンプラリーか何かの表紙を谷口さんの絵にしてもらったら、すごく反響があったというのはお聞きしたと思うんです。だからその程度のちょっとしたことでもね、やはりせっかく大使をやってくれておられるんだし、本人もすごく積極的な方なようなので、アピールできるところをそうやって協力していただけたらなというように思います。それから、今動画で、1冊の絵本が仕上がる時とか、サ

ンタを仕上げるときとかあがってますよね。オープンにして。ああいうのを私はわかりませんが、録画して、ここも図書館のテレビ画面で常時放映するとかっていうことはできないですかね。なかなか作家が自分の手法をオープンにするってないのではと思うんですけども惜しげもなく出されて、あのサンタがどんなふうにできていくのかな、このような描き方するんだというのがすごく面白いし、あれを子どもたちも見たら、ぼくも描けるというくらいの気持ちにはなるかと思うので。

藤井委員

ユーチューブで見られるんですか。

小林委員

ユーチューブかな。私はインスタグラムというので見ているんですけど。

田中館長

谷口さんの情報に関しては、図書館にモニターがないので、館内で流すというのはなかなか難しいんですけども、1階のロビーにモニターがあって、谷口さんのやられたことを流しておられることがあるので、こちらでは見ていただけだと思います。また、谷口さんとのコラボに関しては、今、窓口で無料でお配りしています子ども向けの「読書手帳」の表紙を谷口さんの了承をいただいて、谷口さんのキャラクターを使って表紙に印刷したものを配らせていただいています。それがないと本を読まないという子どももいらっしゃるぐらいです。2冊目くださいというような方もいるぐらいに、持って帰っていただいているところがございます。

また、3年ほど前ですが、谷口さんの絵本感想文、あるいは感想画を募集ということもやりまして、かなり盛況で、表彰式も谷口さん自ら出ていただいて、表彰状を谷口さんの手作りで作っていただいて、優勝した子どももすごく喜んでいただいた状況でした。その前にも、ずいぶん前になりますが、原画展も好評でしたし、やはり地元の作家さんということで、集客、注目度もかなり大きいので今後も定期的にお願したいと思っております。

福井会長

市民でいらっしゃるからということで甘えて全て無償でということでしょうかね。それはあまり虫が良すぎるということもあろうかと思いますが、その辺りは適度に判断いただきまして。

他にございませんでしょうか。この学校図書館の支援員さん、人員不足というように

書かれておりますけども、なかなか難しいんですか。

田中館長

現状ですと、週4日で、1日あたり小学校5時間、中学校4時間ということで予算をとっているんですけども、人員不足で週4日の支援ができていない学校が2校ほどある状態です。最近では募集しましても、募集自体が少ない状況でありますけれども、応募いただいても、学校で当日一人で勤務していただくということですから、こちらとしてもこの人なら大丈夫と信頼できる方を送り出したいという思いがありますので、かなり厳選しているというところもあります。そうしたこともあり、人材不足、人員不足という状況ではありますけれども、今後、何らかの形でしっかり確保していく手法を見出さないといけないと模索しているところでございます。

福井会長

ありがとうございます。他にはございませんか。

そうしましたら、また3月に開催されます第2回の図書館協議会のときにもう少し具体的に今の方のご意見を踏まえた上で、事務局の方で予算要求の結果をお話いただけるかと思っておりますので。

福井分館長

田原の方、追加です。3番の田原図書館のコーナーの件、説明させていただきます。コロナ前に絨毯コーナーということで、田原図書館の児童室の方に設置していたんですけども、絨毯をひきまして、そこへ赤ちゃん絵本をずっと置いていたんですね。コロナでもう赤ちゃんを床に近いところに寝かすというようなことは、今後無理であろうということで、撤収いたしまして、空いていたんです。

そこに知識の絵本などをコンテナボックスに入れて置いていたんですけども、今度、職員との相談のなかで、そこを絵本の広場みたいな形にしまして、先ほどありました谷口さんのコーナーも含めて、書架を購入して1つの親子のゾーンみたいな形でお母さんが取りやすいように、綺麗に整備したいと願っています。

結構、谷口さんの関係も、田原図書館をたまに見に来たりしはりますので、先ほどご提案があったように、谷口さんの本をコーナーの整備も含めて、今もコーナーはあるんですが、整備をしながら、絵本のメインのコーナーみたいな活用を考えております。予算がつけられればいいんですけど。新たな魅力を見出したいと考えております。

福井会長

どこでしたかね、書いてありましたが、ふるさと納税を活用してというのが。これは図書館に使ってくださいということで、かなりの金額が見込めるということですか。

田中館長

図書館限定ではないんですけれども、学校を含めて子ども関連のところ、本の関連ということで、定められている予算です。比較的、通常で要求するよりは措置されやすいものですが、絶対大丈夫というものではありませんので、しっかり資料等用意して臨みたいと思っております。

福井会長

はい。ありがとうございます。それでは議題の3については他にはなにかございませんか。なければ最後4番の議題にまいります

それでは、次に、4点めの議題に移ります。その他について、事務局から何かありますか。

賀藤副参事

先ほど館長の方で議題3の5にありました、公共施設の再編の個別施設規模の関係で、今、議会で議論されていることの現状をご報告させてもらいたいと思います。

1点目ですが、公共施設の個別施設計画については議会において特別委員会というものを設けて、議員方々の意見を聞きながら、必要に応じた、先ほどの個別施設計画というものの修正を進めている最中にございます。

2点目としましては、まずは旧南中学校、既存校舎部分について、新たな避難所機能を有した施設を整備するまでの間、仮の避難所としての活用に向けて動き出す修正が、10月25日開催の議会において議決されたところであります。

その他、他の公共施設につきましては、順次、特別委員会において議論がされていくという流れであるということで、現状としましては以上をご報告ということになります。

福井会長

ありがとうございます。議会の中の個別の検討をされる会議というのは、どれくらいあるんですか。

賀藤副参事

現状ですね、議会の方で議事は進めておりますので、昨日、一昨日、始まったのがまだ1回目で、12月の初めに2回目となって、回数については議会の方で決められるこ

とですので、我々の方では何回というのはまだわからないところです。

福井会長

ありがとうございます。そうしたら、大きく公共施設の再編成についてというような。

賀藤副参事

そうですね。個別の施設については議論をしていく最中にあるところです。

福井会長

それは、その議会でしていただく。議会の中に、分科会とかいうものが。

賀藤副参事

特別委員会を設けて、現状にある個別施設計画という計画はすでに立っていますので、それに優先順位をつけてどこの施設から始めていくのかという議論をされて、それを議会に諮っていく。議会のなかで議論されているところですので、我々はそこに出席している形です。

福井会長

わかりました。特に委員会に分かれてというわけではなくですね。

賀藤副参事

分かれてではないですね。議会全員のなかで議論されることが多いです。

福井会長

わかりました。他にはございませんか。

田中館長

今までの説明の中でも触れましたけれども、イベントの紹介を改めてさせていただきたいと思います。資料配布の2つ折りのスタンプラリー。こちら毎年恒例のスタンプラリーでございまして、スタンプラリー期間に、内側に書かれている行事に2つ参加いただきますと、お楽しみプレゼントを差し上げるというものです。図書館へ来ていただく1つの仕掛けとして、毎年やっているものでございます。やはりこうした仕掛けですが、効果としてはそれなりにありまして、去年、一昨年とコロナ禍で利用が減っているなかでも、このスタンプラリーをきっかけに増えていくという状況が見られましたので、今年も期待しているところでございます。ちなみに今年のお楽しみプレゼントは、なわとびです。いつも何を用意しても、子どもたちはスタンプをためて何かもらえるというのは喜んでくれますので、たくさんなわとびを用意しております。

2点めは、先ほどお話をしました、あけぼのさんにお問い合わせをした音読タイム。これは

講師の方が選んで用意した詩などを一緒に声を出して読むというような内容でございます。先ほど申しましたとおり、定員にはなりましたが、協議会委員さんは、見学ご希望がありましたらお席を用意しておきますので、よろしければお越しください。

それから3点目、大人のためのおはなし会。こちらは今日欠席されておられますが、高垣副会長が所属しておられます、四條畷おはなしの会さんが主催で開かれる、大人のためのおはなし会です。大人の方に来ていただいて、おはなしを聞いていただくという形でございます。こちらは特に定員等ございませんので、その日時にお越しいただきましたら、お入りいただけますので、よろしく願いいたします。あと2点、田原図書館の方でも、おはなし会を開催いたしますので、紹介させていただきます。

福井分館長

初めて田原のおはなしのグループの方が取組みをされます。11月3日に大人のためのおはなし会、「大人のためのおはなしたまてばこ」です。すでにもう定員は超えまして、補欠みたいな状態で、すごく反応がよかったです。英語でのお話をチャレンジが1つ、寿限無など。休憩を挟んで実際40分のお話を5人の方がされます。主催ですので、ご希望があれば見に来ていただけたらありがたいと思います。以上です。

福井会長

ありがとうございます。英語でというのは。

田中館長

中学校で英語の先生をされていた方です。

福井分館長

すごく練習をされてまして、全くこれに関しては私らがどうやらということは一切やってません。ボランティアの方が、大人の方を対象にしたいということで。すごく私たちも喜んでます。

福井会長

ボランティアの方がどんどんどん積極的に動いていただいてありがたいなと思います。私もここに来てさせていただくようになってから、初めてこれだけ四條畷市ではボランティアの方が活動してくださっているんだというのが、初めて知りました。それまで何も知らなかったです。職場と家とを往復するだけで、地域のこと何も知らなくて。本当にありがたいなと思います。

他にございませんでしょうか。それでは今日はきっちり2時間でしたかね、今日の議論、ご意見また参考にしていただきまして、来年の図書館活動に活かしていただきたいと思えます。どうも今日は皆さんありがとうございます。いつもでしたら、副委員長さんからご挨拶していただくのですが、副委員長さんは今日はお休みですので、今日はこれで散会とさせていただきます。

他に何かございますか。他に無いようでしたら、これをもちまして、令和4年度第1回図書館協議会を閉会いたします。

上記議事録の顛末を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 年 月 日

四條畷市立図書館協議会会長 福井 多恵子

同 委員 鉄 寿広